

「世界の工場」ASEAN の発展とタイの港湾政策

～世界経済を支える ASEAN における港湾の役割～

第 147 回運輸政策コロキウム バンコクレポート ～スタートアップシリーズその 3～

拝啓 時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

このたび運輸総合研究所において、『「世界の工場」ASEAN の発展とタイの港湾政策 ～世界経済を支える ASEAN における港湾の役割～』と題し、第 147 回運輸政策コロキウムバンコクレポート～スタートアップシリーズ その 3～をオンライン配信により開催いたします。

ご関心をお持ちの皆様におかれましては、ぜひご参加いただきますようお願い申し上げます。また、ご関心をお持ちの皆様にも広くご周知いただければ幸いです。

なお、ご参加に際しては、大変恐縮ですが、下記の申込専用 URL からお手続き下さい。

敬具

記

○第 147 回運輸政策コロキウム バンコクレポート ～スタートアップシリーズ その 3～

日 時：2021年12月24日（金）10:00～12:00（予定）

開催方法：オンライン（Zoom ウェビナー）

テーマ：「世界の工場」ASEAN の発展とタイの港湾政策

～世界経済を支える ASEAN における港湾の役割～

1 講演およびコメント

講師：坂井 啓一 アセアン・インド地域事務所（AIRO） 研究員

コメンテーター：松田 琢磨 拓殖大学 商学部 国際ビジネス学科 教授

2 ディスカッション

コーディネーター：山内 弘隆 一般財団法人運輸総合研究所 所長

参加費：無料

お申込み：下記の URL よりお申し込みください

<https://krs.bz/jterc/m/collo211224>

（申込期限：12月22日（水）まで）

※お申し込みいただいた方には、12月23日（木）に視聴用 URL を

送付いたします。

Supported by  日本 THE NIPPON 財団 FOUNDATION

運輸総合研究所は日本財団の助成を受けて活動を行っております。

お問い合わせ：一般財団法人運輸総合研究所 国際部（担当：黒川）	
〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-18-19（UD 神谷町ビル）	
TEL：03-5470-8420	FAX：03-5470-8419
E-mail： collo2@jttri.or.jp	HP： https://www.jttri.or.jp/

概要：

製造業を中心に生産拠点が ASEAN に集積し、世界各地へ部品や製品がコンテナ船で供給されており、いまや ASEAN は「世界の工場」として国際的なサプライチェーンを支える役割を担っている。

こうした ASEAN への生産拠点のシフトや海上物流の変化を踏まえた港湾の役割について、貿易インフラとして世界の海上物流を支える機能と、安全保障も含めた海上物流を取り巻く昨今の環境変化の二つの面から分析するとともに、タイに焦点を当てて、国内産業を支える基盤インフラとしての港湾の役割について、事例を含めて紹介する。また、今後の港湾政策の方向性について分析・示唆を行う。

講師：坂井 啓一 アセアン・インド地域事務所 研究員

2010 年東京大学工学部社会基盤学科卒業、2012 年東京大学大学院工学系研究科社会基盤学専攻修士課程修了。2012 年に国土交通省に入省し、航空局、国土技術政策総合研究所での勤務を経て、2015 年～2019 年の 4 年間、港湾局計画課において港湾事業評価、港湾の中長期政策「PORT 2030」の策定や全国輸出入コンテナ貨物流動調査等の統計調査に携わる。2019 年より関東地方整備局港湾空港部クルーズ振興・港湾物流企画室、同部港湾計画課において物流高度化、クルーズ船旅客の受入円滑化、港湾整備事業の事業評価・調査業務に携わる。2020 年 7 月より運輸総合研究所に出向し、在バンコク事務所開設準備室研究員としてアセアン・インド地域事務所の立ち上げを担当。2021 年 4 月にアセアン・インド地域事務所研究員（現職）としてバンコクに赴任。



コメンテーター：松田 琢磨 拓殖大学 商学部 教授

拓殖大学商学部教授。(公財)日本海事センター企画研究部 客員研究員。筑波大学第三学群社会工学類卒業、東京大学大学院経済学研究科博士課程単位取得退学、東京工業大学大学院理工学研究科博士課程単位取得退学。博士(学術)(東京工業大学)。(財)日本海事センター非常勤研究員を経て 2011 年より(公財)日本海事センター研究員、2018 年同主任研究員を経て、2020 年より現職。2021 年より日本海運経済学会常任理事、日本物流学会理事。研究分野は海運経済学、物流(国際・国内)など。2014 年度日本海運経済学会賞(論文の部)、2014 年度・2020 年度日本物流学会賞をそれぞれ受賞。「定期船市場の回顧と展望」、「Cost Analysis of Bulk Cargo Containerization」(共著)等の論文/寄稿がある。

